

<実践報告>

ISO14001 認証取得後の信州大学教育学部・附属学校における  
環境教育充実のための取り組み

熊谷 陽一	信州大学教育学部社会科学教育講座
関 孝志	信州大学教育学部附属特別支援学校
久保田之義	北安曇郡松川村立松川中学校
茂木 伸一	信州大学教育学部附属長野中学校
龍野 武利	信州大学教育学部附属松本小学校
平田 孝司	岡谷市立岡谷西部中学校
土屋 雅弘	信州大学教育学部附属特別支援学校 (1)

Towards an Improvement of the Environmental Education in the Faculty of  
Education and its Attached Schools of the Shinshu University after the  
Certification of ISO14001

KUMAGAI Yoichi: Social Science Education, Faculty of Education, Shinshu University  
SEKI Takashi: Special Support School, Faculty of Education, Shinshu University  
KUBOTA Yukiyoishi,: Matsukawa Junior High School, Matsukawa Village  
MOTEGI Shinichi: Nagano Junior High School, Faculty of Education, Shinshu University  
TATSUNO Taketoshi: Matsumoto Elementary School, Faculty of Education, Shinshu University  
HIRATA Takashi: Okaya Seibu Junior High School, Okaya City  
TSUCHIYA Masahiro: Special Support School, Faculty of Education, Shinshu University

研究の目的	信州大学教育学部附属学校園の環境教育的活動に学部の教育目的「環境マインドをもった教員の養成」を組み込む可能性を追求する
キーワード	環境教育 環境管理システム ISO14001
実践の目的	信州大学教育学部5附属学校園において環境教育的活動を充実させ、EMSの環境目的を達成する
実践者名	信州大学教育学部5附属学校教員
対象者	信州大学教育学部5附属学校児童・生徒
実践期間	2007年4月～12月
実践研究の方法と経過	2007.5.9 信州大学教育学部・附属学校園共同研究環境教育部門発足 2007.4～12 附属学校での環境教育的な授業・活動を記録 2007.12 上記の活動記録を集約 2008.5.7 前年度の活動記録について共同研究環境教育部門会で検討.
実践から得られた知見・提言	1) 共同研究環境教育部門による検討のなかで、教育実習において実習生が児童・生徒とともに環境配慮活動に取り組むような「実践学習」を取り入れることで「環境マインドをもった教師の養成」に資することができるのではないかという合意がなされた。 2) 2008年度、附属学校園の支援の下、基礎実習で「実践学習」を試行することとし、計画・実施を学部エコキャンパス委員会環境教育部会が担当することとなった (2)。

信州大学教育学部は、平成 17 年 12 月に ISO14001 の認証取得を達成し、まず西長野キャンパスおよび附属志賀施設で環境管理システム（EMS）の運用を開始した。大学での EMS の運用なので「エコキャンパスづくり」と呼ばれるこの活動は、2007 年度の 11 月にサイトが附属 6 学校園にまで拡大し、いまや全面的に展開することとなった。その目指すところは、「キャンパスにおける環境負荷低減・循環型社会の実現に貢献する教育研究活動を組織的に推進し、環境問題の解明とそれに基づく環境教育に積極的に取り組む教員を養成することにより、21 世紀における地球環境の保全と改善に寄与する」ことにある（教育学部環境方針）。

本学部 EMS が附属 6 学校園にまで拡大されたのを契機に、平成 19 年 5 月、学部附属共同研究に環境教育部門が正式に発足した (3)。そして、最初の会合において、共同研究の初年度では学部および附属学校園における環境教育・環境研究の実態を把握することで共通の理解を得て、今後の共同研究の推進に役立てようという合意がなされた。

以下では主に、拡大初年度に (4)、5 つの附属学校において環境教育の充実を目指して行なわれた実践活動をまとめて報告する。

(信州大学教育学部・附属学校園共同研究 環境教育部門長 関 孝志)

## 1. 学部・附属共同研究環境教育部門発足の経緯

本学部における環境教育は、EMS が運用されるまでは、学部附属志賀自然教育施設を利用した「自然教育」と高遠少年自然の家などの学外施設を利用した「野外教育」を全学部生に課すること、および環境教育分野学生を主な対象にして「環境教育（入門）」、「自然教育論」、「生涯学習概論」、「自然体験概論」、「技術と環境」、「環境地質学」、「環境と法」、「環境問題と地域社会」などの環境教育分野科目の授業を実施することを中心にして構成されていた。また環境研究については、個々の学部教員がその専門性に応じて自主的に取り組むにとどまっていた。

しかし、EMS 運用開始にともない、学部 EMS 環境目的 1 に「環境研究」が、環境目的 2 に「環境教育」が設定された。前者の環境研究については、まず環境教育を充実させるために教員が学際的に探るプロジェクトチーム「E E C」が発足し、平成 17・18 年度の 2 年間、環境 I S O 学生委員会と共同で勉強会が実施されてきた。ついで 2007 年度、資源エネルギー庁のエネルギー教育普及事業「エネルギー環境教育地域拠点大学」に本学部が選定されたことにともない、「長野県エネルギー環境教育研究会」が発足し、研究会活動として長野県におけるエネルギー環境教育を充実させるに寄与することをねらいとしたプロジェクト「教員養成におけるエネルギー環境教育の実践的研究」に取り組むことになった。後者の環境教育については、エコキャンパス委員会環境教育部会が環境教育の拡大・充実案を検討し、学部のカリキュラムを決定する教育課程委員会に拡大・充実に関する提言を行ってきた。2006 年度の提言では、環境関連教科である理科、社会科、技術科、家庭科、生活科、保健・体育科について基礎科目の充実が掲げられ、多くの科目について学部教員

の協力により充実化がなされた。

また、エコキャンパス委員会環境教育部会は、学部生が環境問題や環境教育についてどんな考えをもっているかを探る意識調査も実施してきた。その一つとして、学部自己点検・評価委員会による「学生の満足度調査」に組み入れる形で、平成17年度には4年生を対象に、平成18年度には2～4年生を対象に、環境意識調査を実施した。その集計結果は、「信州大学教育学部における学生の満足度調査報告書」（学部自己点検・評価委員会、2007年12月）に掲載されている。

こういう事情の下で今回、教育学部の環境教育の充実に附属学校園が貢献できる方途がないか、学部・附属共同環境教育部門で検討を進めることとなったのである。

（執筆担当 熊谷 陽一）

## 2. 附属長野小学校における環境教育への取り組み

本校では全学年、総合生活科の時間を中心に中核活動を行っている。2006年は4年生がリサイクル学習を年間通して行なう中で「全校分別活動」を呼びかけ、分別ボックス利用を定着させた。2007年は3年生が紙の学習を展開する中で、牛乳パックリサイクルに着目し全校での活動へと発展してきている。さらに、2007年度から児童会に環境省エネ委員会を新設し、節電・節水等の呼びかけ等も子どもたちの手によって推進されようとしている。

以下がその具体である。

### I 日常の活動における教育活動

児童会目標：「花咲き鳥歌う学校 明るい言葉の響きあう学校 ものの命をたつとぶ学校」

項目	活動内容	推進者
節水・節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用箇所への「節水」「節電」ラベル表示</li> <li>・ 環境配慮活動チェックシートでの点検</li> <li>・ 花壇水やりに地下水利用</li> <li>・ 全校児童への呼びかけ</li> </ul>	児童会 (環境省エネ委員会) (花を育てる委員会)
ごみの分別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分別リサイクルの全校集会</li> <li>・ 分別ボックス配布と 呼びかけ</li> <li>・ 毎週水曜日の分別当番活動</li> </ul>	児童会 (収集活用委員会) 職員；環境教育係
自然環境保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然体験園の維持管理 (清掃活動・全校草刈り集会等)</li> </ul>	児童会 (自然を守る委員会)
堆肥の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わら、草、落ち葉に分けての堆肥づくり</li> <li>・ コンポストの設置と管理</li> </ul>	児童会 (花を育てる委員会) 職員；環境教育係

### II 環境教育に関する授業

全クラスが子どもと相談しながら中核活動を展開している。その中で環境に触れる学習はあらゆるところで行われているが、環境教育に色濃く関係した活動は次のようである。

中核活動	主な活動内容	活動学級と使用時間
サトウキビから黒砂糖を	サトウキビとの出会い→学級園でのサトウキビ栽培→沖縄の伊波さんとの交流 →収穫→黒砂糖づくり	1年1組 約100時間

生き物の村を作ろう	自然体験園の生き物調べ→生き物が生活しやすい生き物村づくり→生き物が集まるような環境づくり→厳しい冬を過ごす生き物	2年2組 約100時間
牛の「よつば」といっしょ	牛との出会い・牛小屋づくり・子牛の世話等（昨年度）→発情を迎えた発情を迎えたよつばの体→よつばの放牧準備→山田牧場での放牧と受精→妊娠したよつばの受け入れと世話	3年1組 約100時間
世界に一枚だけの和紙	生活の中にある紙調べ→牛乳パックから作るリサイクル紙→給食の牛乳パックリサイクルの全校への呼びかけと実践→野菜の紙づくり→内山和紙→自分だけの和紙づくり	3年2組 約100時間
大池の水と生物	自然体験園の大池のヘドロ調査→大池の水と生物調査→大池に住む生物の命→大池ヘドロ撤去大作戦→水の循環と自然濾過	5年2組 約100時間

(執筆担当 久保田 之義)

### 3. 附属松本小学校における環境教育への取り組み

#### I 日常生活における活動項目

<p>「附属松本小学校 環境方針」より 今、地球が危ない！ 附属松本小学校から地球を助けましょう。</p> <p>○ 節電宣言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節電に心がけましょう</li> <li>・節水に心がけましょう</li> <li>・節ごみに心がけましょう</li> </ul>
--



項目	取り組みの内容	備考
1 節電	<p>【学校全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内設定温度のラベル, 節電マーク表示</li> <li>・月毎電気使用量の把握</li> </ul> <p>【学級・児童会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節電宣言の呼びかけ退出時にスイッチoff</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎の使用量 チェック (8月～11月実施)</li> <li>・節電宣言の表示</li> </ul>
2 節水	<p>【学校全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水マーク表示・水道使用量の把握</li> </ul> <p>【学級・児童会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節水の呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎の使用量 チェック (8月～11月実施)</li> <li>・節電宣言の表示</li> </ul>
3 堆肥の活用	<p>学級園の花・野菜などの肥料化 腐葉土として活用 2007年度は, 学級園に散布</p>	<p>1.8m×1.8m×1.8mの大きさが2カ所 6m<sup>3</sup>の堆肥量 (11月現在)</p>
4 ごみの分別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを減らす努力・呼びかけ, 実施</li> <li>・ゴミステーションの設置, 表示</li> <li>・分別表のクラス配布, 掲示, 資源ごみ回収</li> </ul>	<p>(8月～11月実施)</p>

## II 環境教育の内容を含む授業の実際

### (1) 社会科授業の4年の実際 (4月から12月まで実施)

	領域	取り組みの内容	備考
1	社会	ごみの行方 (11・12月に15時間実施) ・ごみとは、ごみ処理について ・プラスチックごみの処理について ・ごみの社会問題について	・松本市内のごみ処理場の見学及び松本市清掃課の方々の話
2	社会	・水道水のしくみ (6・7月に15時間実施) 「つくられる水道水と下水道について」	・水道浄化処理場の見学

### (2) 5年東組の実際 (4月から11月まで実施)

	領域	取り組みの内容	備考
1	総合的な学習の時間	・女鳥羽川の探索 (8時間) ・女鳥羽川の清掃活動 (4時間) ・夏休み電力量調べ (2時間) ・廃油石けんづくり (6時間)	〈年間〉 105時間中 20時間実施
2	国語	教材「人と物とのつきあい方」(10時間) 読みのもの	ごみの問題について考えた
3	理科	題材「流れる川のはたらき」(3時間)	川の観察をしながら岩石の様子や川のはたらきについて学習
4	社会	「地球温暖化について」(2時間)	地球温暖化とはどんな現象か学習

### (3) 環境教育に関する内容を含む国語科教材の題材名

学年	題材名	実施時間及び実施時期
1年	「いろいろなくちばし」(説明文)	8時間 6月実施
2年	「サンゴの海の生き物たち」(説明文)	8時間 8・9月実施
3年	「きつつきの商売」(説明文) 「すがたをかえる大豆」(説明文)	8時間 4・5月実施 10時間 2月実施予定
4年	題材なし	
5年	「人と物とのつきあい方」(説明文)	10時間 10月実施
6年	「海の命」(文学)	12時間 10月実施

(執筆担当 龍野 武利)

#### 4. 附属長野中学校における環境学習への取り組み

本校では、1学年のヒューマン・ウィークにおける題材として、メディア学習とともに環境問題に関する今日的な課題を自分の問題として受け止め、自分のあり方を見いだしていくための活動を位置づけている(全25時間)。2007年度は、7月9日～13日までの1週間に様々な学習・活動が行われた。以下はその概要である。

##### I 実施内容

- 環境にかかわる出前授業 「環境問題について—みんなもできるエコ活動—」(1h)  
講師：中部電力株式会社社長長野支店総務部総務・広報グループ主任 小野塚隆康さん
- メディア学習における情報収集活動 長野市立図書館 (2h)

- 3 身近な環境問題に対するガイダンス(2h), ワークショップ(6h), まとめ(1h)
- 4 学習の整理やまとめ方にかかわるメディア学習(13h)
- 5 身近な環境問題の学習発表会(参観日を利用して保護者も参加)

## II 実施の具体 : ワークショップ講座

講座名 河川の汚れと水質調査 (活動場所 学校周辺)

活動内容 身近な河川の水質(pH, COD, NO<sub>2</sub>等)を調べ, 水質汚染の実態を知る。  
更に, 活性汚泥による水質浄化について調べ, 活性汚泥中の微生物を観察する。

講座名 水に流せば済む? (活動場所 家庭科室)

活動内容 台所用洗剤などを含む水を用意し, 水の汚れを試薬を使って測定して, 長野市の生活廃水の処理方法を知る。

講座名 長野市にも酸性雨は降っているの? (活動場所 学校周辺)

活動内容 何種類かのpHを測ったり, 酸性で炭酸カルシウム(セメント, 大理石)が解けることを実験する。また, 前週降雨時にpHを測定したビデオ画像を見たり, 附中付近の酸性雨の影響を調べたりする。

講座名 私たちの吸っている空気の実態を探る (活動場所 理科室)

活動内容 試薬紙付のろ紙を測定場所に設置し, 1時間空気に触れさせ, 比色表とろ紙の色を比べ, NO<sub>2</sub>濃度を測定する。そして, 測定値により, 濃度を分布図に色別に示し濃度の違いやNO<sub>2</sub>の人体への影響を考える

講座名 ごみの分別法を極める (活動場所 教室)

活動内容 拾ったごみをすべて分別できるか実際にやってみて答え合わせをする。さらに, リサイクルできるものと, できないものに分けながら, ごみが増えていくとどうなるか考える。

講座名 自動販売機が地球を熱くする! (活動場所 学校周辺)

活動内容 朝陽地区の自動販売機の設置台数を調査し消費電力からかかる金額や排出二酸化炭素等を計算する。そして, これらと地球温暖化との関係を考える。



(写真) 活動や発表会の様子

(執筆担当 茂木 伸一)

## 5. 附属松本中学校における環境教育への取り組み

附属松本中学校では、教育学部EMSのサイト拡大を契機に、全校で「ISO14001とは何か」について学習を行ない、清掃美化委員会の活動がISO14001に結びついていることを理解した上で、節電、節水、節ごみなどの環境配慮活動をより強力に取り組んだ。

以下では、生徒の活動をまとめたものを記しておく（○印はその主な動きを、◇印は教師の主な支援を指す）。

### 1 ISO14001 取得を目指していることを知る。

◇本校でISO14001の取得を目指していることを伝える。

◇ISO14001とは何か、説明し、清掃美化委員会の活動がISO14001に結びついていることを伝える。

○自分たちの生活と、環境が結びついていることを調べる。

- ・教室の電気をつけたまま移動教室に行ってしまう。・水の無駄遣いをしている。
- ・教室が暑いのに、暖房を消さないことがある。
- ・教室の設定温度を上げてしまう。
- ・プリントの裏面がまだ使えるのに、捨ててしまっている。
- ・リサイクルできるごみがあるかもしれないのに、ごみをどんどん捨ててしまっている。

### 2 自分たちでできそうなことを考える。

◇委員会から全校にはたらきかけられることを決め出し具体的な活動内容を考えてみるよう促す。

○「節電・節水」をしてもらうための活動を考える。

- ・「節電・節水」を呼びかけるポスターやシールを作って意識してもらったらどうだろう

○「節電・節水」シールを作り、貼る。

- ・貼る場所を全校で統一しよう。・みんなで分担して、全てのスイッチと水道にシールを貼ろう。

○「節電・節水」のスローガンを考え、ポスターを作る。

- ・スローガンは、すぐに覚えてもらえるものがいい。候補を挙げ、その中から一番いいものを選ぼう。
- ・頭にいつも、『節電・節水』心がけ ～電気も水も限界があります～にしよう。
- ・画用紙で手書きのポスターもいいけれど、破れたりはがれたりしまつては意味がない。
- ・ポスターを全校で統一して、貼る場所も、全校で統一しよう。

### 3 「節電・節水」を促す活動を考え、実践する。

◇委員による「節電・節水」の活動に対する全校生徒・職員の声伝える。

- ・友達が、「節電しなきゃ」とスイッチを消していたり、「水がもったいない」と注意し合っていたりする。自分たちの活動が、環境を守ることにつながりそうだ。

### 4 「冷暖房温度の設定」を促す活動を考え、実践する。

◇さらに自分たちでできそうな活動はないか、考えてみるよう促す。

○「冷暖房温度設定」のための活動を考え、シールを作り、貼る。

- ・暖房のスイッチや温度設定を意識してもらえるよう、暖房のスイッチの近くに貼ろう。

## 5 「ごみの分別」を促す活動を考え、実践する。

◇活動2で出てきた、「プリントの裏面が使えるのに捨ててしまう」「リサイクルできるごみも捨ててしまっている」という声を取り上げ、自分たちのごみ捨ての状況を振り返るよう促す。同時に、当番活動時の全校のごみの出し方についても振り返ってみよう促す。

◇ゴミステーションの新設に伴い、ごみの分別が生徒の自主的な活動に位置づくよう、あらかじめごみ分別システムを立案し、職員に提案しておく。

○自分たちのごみ捨ての状況を振り返る。

- ・家では、マークを見てごみをちゃんと分別しているけれど、学校では分別していない。
- ・牛乳パックとアルミ缶だけは、ボランティア委員会で集めているから分別しているけれど、他のものは何も考えずにごみにしている。
- ・ごみを分別して集めることはできないかな。

◇ゴミステーションを新設していただけること、分別用ごみ箱を買っていただけることを伝える。

- ・新しいゴミステーションで、しっかりとごみを分別できるようにしよう。

○ごみ分別のための活動を考える。

- ・ごみの分別のためには、家にあるような「分別ポスター」が必要だ。
- ・「節電・節水」「冷暖房温度の設定」の活動を生かし、ポスターを作って貼ったらどうだろう。
- ・紙のリサイクルのためのリサイクルBOXを置いたらどうだろう。

## 6 生徒集会で発表する。

◇正副委員長にごみ分別システムについて伝え、全校に周知徹底してもらえるよう、生徒集会を行うことを提案する。

- ・新しいゴミステーションで、スムーズにごみを分別してもらえるよう、生徒集会で伝えてみよう。
- ・委員会で考えた、「分別ポスター作り」や「リサイクルBOXの設置」のような、ごみ分別のための活動も取り入れよう。

○生徒集会でごみの分別方法を伝える方法を考える。

- ・説明だけでは分かりにくいから、パワーポイントを使い、ゴミステーションの使い方やリサイクルBOXの使い方について、VTRを入れたらどうだろう。

○生徒集会の準備をし、発表する。

## 7 これからできそうなことを考える。

◇生徒集会に対する生徒・職員の声を生徒に伝える。

- ・これで分別を心がけてもらえそうだ。
- ・全校のみなさんが協力してくれてうれしい。
- ・ゴミステーションもきれいだし、ごみの量も減ってきているのではないだろうか。

◇今までの活動が軌道にのってきていること、ISO14001取得後はさらに活動を深めていく必要があることを伝える。

○委員会でこれからできそうなことを考える。



- ・ごみの分別ができたから、ごみの量を減らしていったらどうだろう。
- ・電気や水道の使用量を調べて、本当に節電・節水ができていないかを確認して、全校のみなさんに伝えることはできないかな。
- ・まだまだ環境のためにできそうなことはありそうだ。委員会の活動でできることをやってみよう。

(執筆担当 平田 孝司)

## 6. 附属特別支援学校における環境教育への取り組み

附属特別支援学校では、学習活動のなかに、様々な環境配慮活動を取り入れている。たとえば、花壇づくり、畑作業での雨水の利用や堆肥の使用、高等部の「木工」で廃材の活用、「陶芸」で粘土屑の再使用化などの活動に取り組んでいる。さらには、学級活動や生徒活動のなかでも、様々な取り組みを行っている。



名称等		環境教育に関連する内容
学 習 活 動	《生活(作業)単元学習》	・花壇作り、畑作業、いちごの栽培の際の水やれに雨水を利用したり、残さいや落ち葉から作った堆肥を使ったりしている。
	【小・中・高等部】	・木工所より出た廃材を製材し、製品作りに使っている。
	【高等部・木工班】	・製品作りの過程で出た木片も、できる限り補助具などを作る際に利用している。 ・再利用不能となった木片は、屋外で行う調理活動の燃料として使っている。
	【高等部・陶芸班】	・製品作りの過程で出る粘土屑は、水につけて再生し、再利用している。 ・製品運搬時に製品を包む新聞紙は、繰り返し使っている。
学 級	【小学部】	・電気係を設け、教室を空ける際などには教師が声をかけ、係の児童が蛍光灯を消すようにしている。 ・給食で出た牛乳のパックを、ハサミで切り開き、束ねている。 パックは家庭に持ち帰り、家族とスーパーで買い物をする際にリサイクル・ボックスに出している。 ・日よけのために、朝顔などで緑のカーテンを作っている。
	【中学部】	・前庭のごみ拾いの活動をしている。 ・日よけのために、朝顔などで緑のカーテンを作っている。

活動	<p>【高等部】 「ピザを作ろう」</p> <p>「草木染めをしよう」</p> <p>「牛乳パックを使って紙すきをしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ袋を複数用意しておき、ピザを作るときに出たごみは分別してごみ袋に入れた。</li> <li>・材料は使う分だけ購入し、廃棄する材料をなくすようにした。</li> <li>・いらなくなったシーツを利用して、ハンカチやバンダナを作成し、草木染めを行った。</li> <li>・他の学習で出た木の樹皮を再利用しようと考え、樹皮から色素を取り、木染めを行った。</li> <li>・家庭で出た牛乳パックを回収し、パルプを作り、紙すきの活動に取り組んでいる。本校職員の名刺やはがきを作成した。</li> </ul>
生徒会活動	<p>【生活委員会】</p> <p>【清掃・美化委員会】</p> <p>【放送委員会】</p> <p>【保健・体育委員会】</p> <p>【図書委員会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節電と節水を呼びかけるポスターを作成し掲示した。同時に、ステッカーを作成し、各教室の蛍光灯のスイッチや水道の近くにはった。</li> <li>・分別用のごみ箱を設置し、定期的にごみの分別活動をしている。</li> <li>・環境美化や資源の有効利用に関する呼びかけの放送をしている。</li> <li>・体育器具を大切に使うことを呼びかけている。</li> <li>・本を大切に扱い、読んだら棚へ戻すことを呼びかけている。</li> </ul>
《学校行事》		<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊学習の際、キャンプファイヤーに廃材を使用する。</li> </ul>

(執筆担当 関 孝志, 土屋 雅弘)

【注】

- (1) 執筆者の所属先は、投稿時（平成20年6月）のものである。執筆時（平成19年12月）、久保田之義の所属先は、附属長野小学校、平田孝司の所属先は、附属松本中学校であった。
- (2) 本稿に記載の教育実践記録は、平成20年度基礎教育実習事前指導の資料のひとつとして活用された。
- (3) 学部・附属共同研究環境教育部門は、学部から環境研究プロジェクトチーム「EEC」の、附属学校園から環境委員会の、それぞれ主要メンバーが参加する形で発足した。発足時の構成は以下のとおりである。  
学部：鶴飼照喜，渡辺隆一，土井進，関良徳，熊谷陽一（副部門長）  
附属学校園：久保田之義，茂木伸一，龍野武利，平田孝司，土屋雅弘，関孝志（部門長）
- (4) 平成19年度に教育学部EMSが附属学校園にまでサイト拡大されるに際して、新たな環境目的として「附属学校における環境教育の授業の実施」と「枯れ葉や雑草等の堆肥化の促進」が追加された。なお、平成20年度の環境目的についてはエコキャンパス委員会のホームページ《 <http://ecampus.shinshu-u.ac.jp/~iso/> 》を参照されたい。

(2008年6月30日 受付)